

## 問 避難所の「仕切り」の整備状況は

答 県が必要数を精査中、整備は未定



あべ 功志 議員

**問** 策定できたとする避難計画は課題だらけで実効性には程遠い。この課題は国や県と相談すれば解決できると村長は思っているか。

**答** 他地域では、国がまとめた緊急時対応で課題が整理されていると認識する。県は「県外の避難先の確保」や「複合災害への対応」などを「今後の課題」として計画に明記しており、緊急時対応が取りまとめられる過程で整理される必要があるものと認識する。

**問** 避難所の一人当たりの割り当て面積は3㎡だが、これはパー

ティション（仕切り）で区切ることが前提。その整備状況はどうか。

**答** パーティションは県で配備を進めることとされており、今は必要数の精査中で購入はしていない。今後の整備予定は未定。

名称	購入費用 (概算)	保管数 (張)	保管場所
ワンタッチパーティション ファミリールーム	817万円	208	舟石川小・ 村松小など
屋内型避難所用 テント	101万円	100	東海中
災害用多目的 テントなど	312万円	110	白方小など
計	1,230万円	418	

東海村のパーティション等の保管(令和6年5月現在)

**問** 県頼みか。仕切り確保の見通しが立たずに面積の確保ができるのか。面積はスフィア基準（国際基準3.5㎡）も満たさないが。

**答** 県に計画的に配備を進めてほしい。面積は県の避難所検証委員会で定めたもの。

## 問 防潮堤施工不良はなぜ起きたのか

答 器具接触と土砂はらみだしと推定



おおな みえ子 議員

**問** 「南基礎と北基礎の鉄筋損傷とコンクリート未充填」および「鉄筋カゴの高止まり」は安全協定上の案件ではないが取水口の破壊につながりかねない重大問題。住民も行政も「知らされない」で良いはずはない。昨年9月20日の原電の説明以降動きはあったか。

**答** 複数回のヒアリングのほか、安全協定に基づく「平常時立入調査」や「東海第二発電所に係る連絡会」において、担当職員が現地を確認している。

**問** 今回の施工不良はなぜ起きたのか。

**答** 「鉄筋損傷と鉄筋カゴ高止まり」は、先行して設置した鉄筋カゴに土砂を取り除く器具が接触したことで鉄筋が変形し、その変形箇所から設置した鉄筋カゴが干渉したため、「コンクリート未充填」は、掘削機の荷重や周辺のコンクリート打設圧などで掘削された口の字型の溝へ土砂がはらみ出したために発生したと聞いているが、溝が掘削された状態で時間が経過したことも要因と考えられるとのこと。



再稼働に向けて、新規規制基準対応の工事を進める東海第二発電所